



ILO・ユネスコ 教員の地位勧告

全教、教組共闘、民主教育研究所は6月13、14日、「ILO・ユネスコ『教員の地位勧告』とCEART勧告を教育にいかす国際シンポジウム」を都内で開催しました。韓国、ニュージーランド、フランスの教員団体の代表が参加し、新自由主義的な教育がすすめられるもとの『教員の地位勧告』、CEART「第4次勧告」の意義と役割を明らかにする場となりました。



ファン・ヒョンスさん

全教推進連絡会



蟹沢昭三さん

「教員の地位勧告」を 教育に生かす大学習運動を

二つのテーマで 報告・討論

国際シンポジウムに参加した海外代表は、フランスの中等学校の教員でつくる



ロジャー・フェラーリさん

労働組合SNESの国際部長ロジャー・フェラーリさん、ニュージーランド教育協会の全国副会長イアン・レッキーさん、韓国の全国教職員労働組合(全教組)の国際局長ファン・ヒョンスさんの3人。日本側からは全教の今谷賢二、蟹沢昭三の両中央執行委員がシンポジウムとして発言しました。



イアン・レッキーさん

題目には、「教員に対する教職員組合のたたかい」の評価の現状と課題―交渉・協議にもかかわらず―をテーマに報告・討論が行われました。

世界的に共通する 新自由主義教育の弊害

「新自由主義を乗り越え」

題目には、「教員に対する教職員組合のたたかい」の評価の現状と課題―交渉・協議にもかかわらず―をテーマにした報告・討論では、「教員団体の教育政策の策定、実施」への



今谷賢二さん

「新自由主義教育の弊害」の報告・討論が行われ、その格差を持ち込むもの(フランス代表)、政府が小中学校に持ち込むようにしている読み・書き・算の全国学力基準づくりと全国試験の実施は、「教員が教え

る授業の範囲を狭め、単純な学力測定に重点を置き、試験に受かるための授業になる(ニュージーランド代表)と危険性を指摘しました。韓国・全教組代表は、「行き過ぎた大学入試競争」は塾などの「私教育」への過度な依存を強め、「これは公教育の土台すら脅かしている」と指摘しました。

破綻せざるをえない 実情無視の「改革」

「教員の地位勧告」の価値に新たな光

また、「教員評価の現状、課題をテーマにした報告、討論では、「教員団体の教育政策の策定、実施」への

の関与が重要であり、実情に合わせ、教育の条理に反する「教育改革」は破綻せざるを得ないことが各国からの経験の報告を通して明らかになりました。そして、参加者からは子どもの成長・発達を願い、人格の完成をめざす教育の条理を教職員の共同で実現することが教育のグローバルスタンダードであること

て光をあてるものとなっていることを指摘したうえで、「教員の地位に関する報告」の大学習運動を呼びかけました。